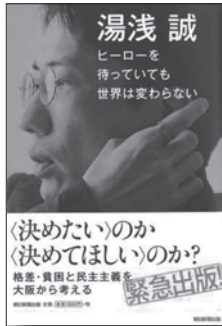


BOOK 本の紹介

ヒーローを待っていても世界は変わらない

湯浅 誠著 朝日新聞出版社(2012年8月)
定価1,300円(税抜) ISBN978-4-02-251012-9

著者は「社会の問題に威勢よく切り込んでくれる『ヒーロー』に期待しても、やがては失望が待っているだけ」と現代社会の風潮に警鐘を鳴らし、問題解決のためには人に寄り添って共に考える姿勢が重要であると訴える。民主主義とは何か、そこで生きる私たちには何が求められているのか、自身の体験や具体事例をもとにわかりやすく解説されている。



環境コミュニティ大作戦 資源とエネルギーを地域でまかなう

白井 信雄著 学芸出版社(2012年5月)
定価1,995円(税込) ISBN 978-4-7615-1307-8

環境・エネルギーの問題は、設備投資や技術開発だけでは解決しない。大事なのは、地域の人々が自立しながら、互いにつながり力を発揮することだ。本書はこれまでの様々な環境政策と自治体等の取組みを振り返りながら、いま求められる、自立した環境コミュニティづくりのための具体的なアクションプログラムを提案している。



仕事おこしワークショップ

傘木 宏夫著 自治体研究社(2012年10月)
定価 2,205円(税込) ISBN 978-4880375960

著者は市民が自発的に社会の公益に資する事業(非営利事業)を起こそうとする行動を「市民からの社会おこし」と表現。その背景には、限界集落、産業の空洞化など「地域が捨てられている」現状がある。長野での実践をもとに「仕事おこし」をするためのワークショップの運営方法が丁寧に解説しており、地域を変えようと行動する全ての人にお勧め。



地域に愛される大学のすすめ

NPO法人オンデマンド授業流通フォーラム大学イノベーション研究会著
株式会社三省堂(2011年8月)
定価1,600円(税込) ISBN-13 : 978-4-385-36569-5

少子化の中、どう大学が生き残っていくのか?本書は学生・地域と一緒に大学を作ることに徹底的に取り組む3大学の事例を紹介している。大学職員や学生が試行錯誤しながら地域に入りこみ、やがて地域に育てられ、愛される存在となっていくエピソードから地方大学ながらも人気の理由が良くわかり、これからの大学や教育のあり方を考えさせられる。



もうひとつの北海道環境白書 2012 —先駆者の軌跡にみる北海道の環境変化

編集：環境中間支援会議・北海道、北海道大学大学院環境科学院
IFES-GCOEプログラム(2012年11月)
定価 1,050円(税込) ISBN978-4-89391-693-8

本書は、これまで北海道の環境保全活動に直接携わってきた12人の先駆者の軌跡を辿る形で構成されている。昨年のラムサール会議で湿地保全賞を受賞し、先日他界した湿原の専門家・辻井達一氏のインタビューも掲載されていて「人あっての自然」という視点や、世界の現場を見ることの大切さ、保全に関わる合意形成の重要性を訴えている。



オース条約を日本でも実現しよう 環境に関する情報公開、市民参画、司法アクセスを求め

オース条約を日本で実現するNGOネットワーク グリーンアクセス
プロジェクト発行(2012年11月)
<http://www.aarhusjapan.org/> (ホームページより無料ダウンロード)

環境政策における情報公開、市民参画、司法アクセスの重要性を提唱する「リオ宣言第10原則」の理念を実現するために定められたオース条約。この条約の意義や、市民の暮らしにどのように役立てられるのかが、具体的事例と共に分かりやすく解説されている。環境裁判や原発事故を巡る問題での活用事例など、注目すべき動向が掲載されており必見。

